

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297200467		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム浜松富塚(櫻ユニット、葵ユニット 合同)		
所在地	静岡県浜松市中区富塚町628-1		
自己評価作成日	平成25年8月15日	評価結果市町村受理日	平成25年11月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシメビル6階
訪問調査日	平成25年8月27日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員はご利用者様と「共に暮らす」意識を持ち、家庭的な環境の基で、互いが助け合い、「第2の我が家」になるよう心がけております。1階には小規模多機能居宅介護事業所もあり、レクリエーション・イベント等、交流も盛んです。ホーム近隣には公園やスーパーなどがあり、容易に外出できる環境下に立地しています。また、ホーム隣には協力医である呼吸器内科、2km圏内には総合病院があり、医療面においても早期対応が可能です。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小規模多機能を併設し、同敷地内に協力医、ごく近くには総合病院と医療連携の高い環境に、新設1年の真新しい事業所として存在しています。また、隣接地にはデイ・ショートサービスの事業所、近々に開業の老人ホームなどもあり、今後の連携が期待されます。助け合いながら共に暮らすことを目指して、法人グループ内の「匠自慢コンテスト」では開所間もないながらも全国優秀賞を受賞するなど、利用者一人ひとりの個性が引き出されたケアが際立っています。管理者は職員の質を高めることを第一の課題と捉え、内・外部研修で研鑽を積むことで職員の可能性を介護エキスパートへと引き上げる取組みに力を注いでいます。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に唱和し、常に念頭に置くよう心掛けている。また、クレドも唱和し、責任者から内容について質問する等、理解を深めている。	法人理念はクレドと呼ばれる法人のケア信条を定めた標語と共に毎朝礼時に唱和しています。クレドは常に立ち戻る原点として文面を携帯し、管理者は会議などでも職員に問いかけることで意識の浸透を図っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域のボランティアによる催し等、行なって頂いている。また日常的に散歩に出かけるなどして地域からの認知度を高めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、ホームの情報を発信している。また日常的ではないが、老人会の場で、認知症について講演を行ない地域貢献に繋げている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域行事等のご案内を頂くことが多く、状況に応じて、参加させて頂いているが、今後更に活発な意見交換が出来るようにしていきたい。	運営推進会議は2ヶ月に1度、自治会長、行政、地域包括、家族の参加を得て開催しています。地域との連携に関して各種情報や橋渡しをしてもらっているほか、回数を重ねるごとに意見が出易い雰囲気がつくれつつあります。	周りの介護施設の管理者との交流も盛んなため、多様な人的資源の活用から運営推進会議のメンバーとして参加をお願いすることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席して頂き、ホームの実情・サービスの取り組みを伝えている。定期的に訪問し、相談等行なっている。	運営推進会議には毎回、行政、地域包括の参加があり、制度面や家庭事情への配慮方法などにアドバイスがあります。会議議事録も都度担当窓口へ届け、話し合いの機会を持つことで密な連携が構築されています。	介護相談員の受入れを運営推進会議時や行政への訪問時に要請し、利用者のさらなる安寧に繋がることを期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止を遵守し、内部研修の中で学びつつ繰り返し意識付けしている。玄関等も夜間以外の施錠はしていない。	身体拘束排除宣言をし夜間以外の玄関施錠はありません。入居間もない利用者の不穏な動きにも、所在確認と見守りの徹底で事故のないケアが叶ったこともありました。スピーチロック等はヒヤリハット報告の中で話材にし改善に繋がっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修の中で、虐待についての勉強会を実施し、認知症を理解した対応とともに、虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修の中で、権利擁護について学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時には、十分な説明、相談をし、ご理解を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年、ご家族様アンケート実施。法人グループ他施設での家族アンケート結果も共有でき、サービス向上に生かしている。また面会時に、状況報告と共に要望を直接聞けるよう配慮している。	法人が実施する家族アンケートでは、職員の定着度合などに忌憚りの無い意見が寄せられるなど運営に反映させる仕組みができています。ほぼ毎月ある家族面会には可能な限り管理者が対応し、毎月発行の「富塚だより」では詳細な状況が記され、家族の安心となっています。	運営推進会議に家族の参加がありますが、会議議事録に参加していない家族に送られることで、種々の情報が共有されることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人グループにて、職員アンケート実施しているまた、日ごろから各会議等で職員の意見聞く機会を設け運営に繁栄されるよう努めている。	全体会議、ユニット会議を毎月各1回行っています。偏食気味の利用者が餃子に興味を示したため皆で手作り餃子を始めたり、野菜作りを望む利用者の意向をプランターでの栽培で可能にしたことなどは、くみ上げた意見が反映され易い職場環境を物語っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員評価を年1回実施し、面談も実施し、個別指導と共に、意見相談を受け付け職場環境の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会、内部研修を実施している。今後、外部研修参加の機会を設けていきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	責任者は近隣の同業者への見学等、定期的に行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居時のアセスメントや、ご家族からの情報収集に努め、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居相談の段階から、相談を重ね、入居後は、面会時等に詳細に状況を伝えるよう努め、要望等聞きつつ関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の要望や、ご本人がおかれている状況も勘案して、どのようなサービスが必要なのかを見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理・掃除等、日常の中で共有できることを大切し、良い関係を築けるよう取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月1回のホーム通信・行事案内も含め、家族の協力の必要性・重要性を都度お伝えし、面会等の依頼をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	全員ではないが、通い慣れた病院等への通院を継続することで、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	面会時間の定めはあるものの自由度を持たせているため、家族や友人、趣味の先生などの訪問など多くの馴染みの顔に出会えています。職員が教会への送迎や檀家寺にも同行するなど、これまでの生活を大切にしたいサポートがみられます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の散歩・体操・買い物等により、ご利用者同士が関わり、支えあえるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族への電話連絡での、経過フォローや相談に努めている。また、入院、入居された近隣施設に面会等も行なっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	あらゆる場面の自然な会話の中で意向の把握に努めている。	思いの表出が困難な利用者には家族から詳細な聞き取りを行っています。職員は発せられた言葉の奥を読み取り、ケア日報やケース記録に残しているため、会議や朝礼の場で話し合うことで共有し意向の把握が可能になっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にアセスメントで把握に努めるとともに、入居後もご本人や、家族、面会の友人等からの情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日報や、申し送りノート、バイタルチェック表など活用し、経過情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議にて話し合っている。家族参加が難しいため、面会時や、電話にてご意見をいただいている。一人の利用者に対し二人の職員での担当制とし、気づきシートにて状態把握しチームでの計画作りに努めている。	計画と居室担当のダブル担当制を設けているため、その相乗効果から死角の少ないケアの仕組みを構築しています。介護計画の見直しとモニタリングは3ヶ月に1度行われ、変化時には随時対応することでアップデートな対応が叶っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報、申し送りノート、介護記録を活用し、朝夕礼にて申し送りして情報の共有に努めている。毎月のユニット会議で、ケアカンファを実施し個別対応を協議している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別のニーズに対応する方法を、常にどこまで出来るか、柔軟な発想のもと検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム裏の公園や近隣のスーパー等へ出掛け、季節感を感じて頂いたり、買い物等での楽しみに繋げている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム隣の協力医との関係の下、ご家族の協力を得ながら、通院介助等に繋げている。	かかりつけ医には家族介助のほか職員介助の受診もあります。24時間対応の協力医が同一敷地内に、また総合病院も至近距離にあり、看護師も身近にいることなど、医療利便性の充実は利用者と家族の大きな安心となっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療面に関しては、直接雇用の看護師に相談し、情報の共有をしながら、適切な受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	その都度、医療関係者との相談に努めている。また、往診医との連絡体制等、協力関係を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化に応じ、常に家族と相談し、地域の医療施設等関係者とも相談しながら支援している。	看取り、重度化には契約時に指針を説明し理解を得ています。協力医とも連携が容易で現在も看取りに取り組んでいます。職員は看取りと、それに連なる心のケア、手薄となる夜勤時の不安払拭など、看護師を核とした勉強の機会をもっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの設置・連絡体制についてマニュアル周知を図っている。訓練については定期的に行いたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力関係においては今後の課題である。	防災訓練は年2回あり1回は夜間想定で行い、実践訓練を経ることで自信に繋がっています。身体能力の落ちてきた利用者に対しての夜間帯対応については今後の検討課題として話し合っています。災害時の地域避難場所としての申入れも検討しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇・マナー等、勉強会を通じて、意識を高めている。	トイレへの声掛けなどは小声で伝え、入浴時には同性介助にも応じることでプライバシーに配慮した、恥ずかしい思いをさせないケアに努めています。接遇は重要課題と捉えていて、職員間で注意しあい会議でも常に話題にすることで利用者の尊厳を大切にしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けや、傾聴にて、ご本人の希望を聞きながら、分かりやすく選択できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	現在の状況を把握しながら、一人ひとりのペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択、散髪時の髪型等、出来る範囲で希望を聞きつつ支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物と一緒に出かけ食材を選んで頂いたり、調理の下ごしらえ、盛付、後片付けなど出来る範囲で、利用者に参加して頂けるよう支援している。	利用者の筆になる食事のお品書きが誇らしく掲げられ、ランチョンマット上には彩り良く調理専門職員のつくった食事が並びます。個人の体調に合わせた時間差食事にも対応しています。全員参加の焼そば作りなどは楽しむと共に利用者の機能回復の一助になっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量等、チェック表を活用しながら、状態把握に努め、適宜、個々に合わせて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態に応じて声かけ支援し、口腔の清潔保持に努めている。訪問歯科利用し、治療・助言を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンチェックを必要に応じて実施している。	チェック表を基にした声掛け誘導が功を奏していて、自立支援を目指し失敗のない排泄に取り組んでいます。紙パンのパットから布パンのパットへの改善例もありました。夜間帯は声掛け誘導や睡眠優先を個別に対応し、心地よい眠りを可能にしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の促しや、運動の支援を中心に、下剤の使用は最小限とし、個々の体調に応じた排泄援助実施している。排便作用のあるお茶を利用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々に声かけし希望やその日の体調に応じ入浴支援をしている。入浴中は、個別支援にて会話を楽しんで頂けるよう心掛けている。	1日おきの入浴ができていますが希望すれば毎日入浴も可能です。希望で機械浴や夜間入浴もでき、帰宅願望者には気分転換となり一定の効果が得られたこともあります。個別に張るお湯は「今日も1番風呂だよ」の声掛けで心地よい気分にならせてくれます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズムを整え、夜間の睡眠が十分確保できるよう、日々の生活活動へのお誘いをしている。また、室内の環境も本人本位に整備している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容や、注意点の周知に努め、経過観察しながらの服薬管理をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者個々に出来る役割や楽しみなど、職員間でアイデアを出し合い、支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物などの外出の機会を持つように心がけている。全員では無いが、家族も散歩や外出に同行して下さる機会もある。	すぐ前の川沿いの散歩やスーパーでの買い物などで頻回な外気浴ができています。ドライブ外出の機会が全体では2~3ヶ月に1度、少人数ではショッピングモールでの買物なども毎週あり、ストレス軽減と地域資源の中で社会性の維持が叶っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少数ではあるが、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望のある方は手紙・電話等でやり取りが出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掲示物や飾りなど、季節感・生活感を取り入れた空間作りを心がけている。	温度湿度計で管理され、白を基調とした明るい共用空間が広がっています。食事やレクの風景写真が壁に飾られ、すっきりとした居間にゆったりとした時間が流れています。テーブル上のお菓子は自由に取れるなど、家庭を意識させる雰囲気作りもできています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングやエントランスにソファを配置したりして居場所作りを心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様の協力により、馴染みの物品を多く持ち込んで頂いている。	各居室の入り口には立派な表札が掲げられ、エアコン、クローゼットが備え付けられています。思い出の写真、小物入れ、テレビ、趣味のキーボードなど馴染のものを持ち込んで部屋で楽しむなど、居心地良く清潔な居室が出来上がっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	風呂場、トイレなど、案内表示等工夫しつつ、自立した生活が送れるように支援している。		